

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4390100552		
法人名	社会福祉法人 白富会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 ひまわり園		
所在地	熊本県熊本市東区長嶺東3丁目3-70番地		
自己評価作成日	2012/10/10	評価結果市町村受理日	平成24年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成24年10月31日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

明るく広いスペースで落ち着いた生活が出来ます。ホームの近くに小学校もあり、登下校時や運動場での活動時に児童の声が聞こえ、元気な声に入居者の笑顔もほころびます。定期に入居者お一人々のホームでの生活を「ひまわり通信」にてご家族へ安心をお伝えしています。職員の元気も大切にしながら、入居者お一人々に楽しく目標のある生活が継続出来るように努め、笑顔でゆとりのあるケアを目指しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開所以来併設する多機能事業所と連携し、合同での行事や研修、会議を企画・実践し入居者との関係継続を図り、職員の異動も最小限度に抑えながらその力量や持ち味が発揮できる職場環境作りに努力している。管理者は「みんなの仕事に対するオンとオフのメリハリが出来てきた」と、この一年職員の仕事に対する心構えを評価しており、差し入れと共に外出先の土産話は職員と入居者の間に更なる縮め、文字通り「スマイルライフ」を実践している。取り入れられた「気づきノート」は、これまで以上に入居者の思いに応えるケアの実践に繋がると思われる。又、新しく手作りの掲示板は、地域への情報発信の手段として今後大いに活用が期待され、積極的なアプローチにより更に地域に根ざしたホームとしての活躍に期待が持たれる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔の絶えない施設づくりを基本に掲げ、「スマイルライフ」を職員理念に置き、運営理念を中心に日々取り組んでいます。	管理者は理念「スマイルライフ」に込められた意味を朝礼時に職員に伝え、職員が守るべき基本マナー「マナー五原則」挨拶、表情、言葉づかい、姿勢、身だしなみ、をホームに掲示しつつひとつの言葉を日々のケアに照らしながら入居者と向き合っている。職員採用時に理念を通しホームの方針を説明し、年度初めの運営推進会議で参加者に紹介して啓発に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の勉強会や行事への参加案内をしています。、夏祭りでは地域の方々の来園もありました。	毎年、企画している夏祭りを本年度は9月に納涼祭として、チラシの配布や声かけにより地域の人々やボランティアが参加して盛大に開催されている。今回は地域の意見を取り入れゲーム景品を参加者の年齢に応じて準備し好評を得ている。職員研修に地域から外部講師を招き、学生やヘルパーの実習生を受け入れている。前回の外部評価を受け地域へ向けた情報発信の手段として、職員による手作り掲示板が完成し近く設置予定である。	管理者はこれから地域の清掃活動などへも参加していきたいと語っている。運営推進会議に民生委員が新たに加わった事で、地域情報や活動の窓口などが紹介されており、今後の地域交流に大いに生かされるものと思われる。取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学やボランティア活動として施設にいられた方又は実習生に対し時間を取り、認知症ケアでの質問を受けその都度説明しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その都度での問題点等を会議の場で検討すると共に、より良い施設運営のアドバイスを受けています。	階下、多機能事業所との合同会議は開所以来三十回近くを重ねており、新たな取り組みとしてメンバーに地域民生委員や、各事業所から職員一名ずつが加わっている。ホームの現状や活動報告、支援相談委員からの内容報告、意見交換などが行われている。議事録は一階ホールに掲示し家族や外来者に開示している。	毎回、一階ホールで会議が開催されることから、参加者と入居者の接点の場がなく、年度初めの会議で会議開始前に参加者をホームへ案内してコミュニケーションを図り、入居者の様子や状態を把握してもらうことで意見や提案が更に引き出しやすくなると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要な時は連絡を行っています。	推進会議には毎回、包括職員が参加している。管理者は、書類提出や手続き等で行政を訪れ日頃はファックスやメールで連絡を取るなど有効な関係を築いている。支援相談員による月一回の来園により入居者の意見や思いを引き出し、推進会議で内容を報告しケアに反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待についての研修に職員が参加し、その職員からの報告にて虐待防止と身体拘束についての認識を深めた。	ホーム内の勉強会でどんなものが拘束なのか、拘束に繋がるようなことをしていないかなど日々のケアと照らし合わせながら意見を出し合い認識を深めている。スピーチロックについて管理者は職員の言葉から入居者の動きを静止する「ダメ」「後で」と言った言葉は聞かれず、何かあれば気付いた時点で注意するよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に職員が参加し、その職員からの報告にて虐待防止についての認識を深めた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて権利擁護に関する資料を使い、確認しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、契約書、重要事項説明書、運営規定を読み合わせ、同意して頂いた後に記名と捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見は箱を入通りの少ない場所に設置しており、記入して頂いた内容はスタッフに伝え、改善出来ることは対応しています。	入居者の些細な一言や、職員が関わる中で気づいた事項を書きとめ、全職員の共有やケアに活かせるよう“気づきノート”が新たに作成されている。又、日頃より家族とのコミュニケーションを大切に、意見や要望を確認している。意見箱は気遣いなく利用してもらえるよう、設置場所にも配慮し、公的機関の窓口も入居時に説明を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議にて、検討会や意見の収集を行っています。	主に職員会議の中で意見や提案を確認している。今年度一階に置かれていた職員ロッカーが新しく二階に設置され、移動時間の短縮に繋がっている。園外研修については職員自身が学びたい内容のみに参加して欲しいとして、自己申告により研修派遣が行なわれている。又、管理者は職員がメリハリのある生活の中で業務に当たれるよう、勤務体制や、やりがいのある職場環境に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員改善加算は元より、職員の腰痛予防や負担軽減を図る目的に、車椅子体重計を補助を受け購入しました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員を中心に定期的な勉強会を行うと共に、安全対策委員会にて、職員から出た日々のヒアリングの検証を行い、同時にその職員に書面にてアドバイスを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等の研修で他施設との情報交換を含めた勉強会に参加しています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の言動や行動に注意をはらい、不安の除去に努めています。又、職員会議にて介護の心構えとして利用者の方の心理を含めた勉強をしました。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には、生活状況、健康状態を伝え、必要な支援や相談を行っています。又、ひまわり通信にて、ご家族へのコメントを入れ情報提供を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を傾聴し、ご利用者様中心の支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯物を干したり、食事の準備や後片付けを行っています。時にはおやつ作りも一緒に行っています。又、ご利用者様の誕生日には、他のご利用者様と一緒にケーキを作っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の状況をその都度家族に伝え、情報の共有を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の習い事での友人等が来園された際には、写真を一緒に撮り、その頃の思い出話をしたり、アルバムを開き、ご利用者からの話を傾聴しています。又、ご兄弟の面会のご家族に協力依頼しています。	入居者にとって一番大切な家族や兄弟、姉妹など近親者や知人との関係が途切れないよう、訪れやすいホーム作りや、姉妹の入所先への面会を支援したり、家族の協力により外泊や曾孫に合うための帰省が行なわれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の特技を活かし、その都度中心となる方が変わり、参加の意向を聞きながら時には個別で行い、時には全員参加でレクやゲームを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	月に1回又は2ヶ月に1回のひまわり通信を家族へ発行しており、施設での様子を写真で伝えるほか、必要時にはその都度連絡を行っています。又、退去後も面会に行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者や家族の意向を取り入れ、ケアプランの作成を行っています。状況次第では、その都度ご家族への連絡相談を行い対応しています。	本年度取り入れた、「気付きノート」は何気ない時に入居者が発した言葉をその都度書き留めることで思いを汲み取り、ケアに反映させることを目的としている。家族に対してもその度ごとに連絡を取り、来園時には気兼ねなく意見や要望を出してもらおうよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族等との会話から、情報を得ようと努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、カンファレンス等を行い、その方自身の情報を各スタッフで共有する様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の状況を把握し、必要なケアを立案しています。又、介護計画のモニタリングは、毎月実施しており、ご家族に相談が必要な内容がある場合は適宜相談し対応をお願いしています。	職員を入居者の担当制としておりプラン作成に関わり、入居者や家族の意向を反映させている。毎月のモニタリングで評価しケアプラン委員となっている職員が追加、修正している。管理者は家族へのプラン説明時に今後のことも踏まえ、良い事ばかりを伝えるのではなく、言い難いことがらも家族の思いに配慮しながらきちんと伝え、内容を分かりやすく説明して家族の了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ご利用者様個別に日々の記録を行うと共に、簡素化した文章ではなく、ポイントが明確に分かりやすいPOS方式を取り入れています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りご家族の急な申し出や受診対応等柔軟に行う様にしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時にはご利用者様と一緒に食材の買い物に出掛ける時もあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族とご利用者様とで病院受診される際には、必要に応じ、前もって情報提供書の作成を行い、直接電話での報告や受診時に持参して頂いています。	これまでのかかりつけ医を継続して支援し家族による受診支援時には、看護師からの食事・排泄・睡眠等の情報を文書や電話により提供している。現在は殆どの方が協力医をかかりつけ医とし、月二回の往診が行なわれている。高齢化の現状から、管理者は日々の健康管理や異常の早期発見に努めたいと語っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、情報交換をしており看護師が休みの時も必要な時は電話連絡にて指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会を行い、その際に担当Nsとの情報交換を行っています。退院の際には、他の関係部署(例:リハビリや栄養課)等からの情報交換や相談を行っています。その都度、サマリーを作成し提出しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じ、ご家族や関係機関との連絡調整は行っていますが、終末期への支援は現在実施していません。	重度化の指針を作成し、利用開始時や状況に応じホームの方針を説明している。医療行為を必要としない状態で、看取りの希望があれば対応する事としているがこれまでのところ看取り支援は行なわれていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間の事業計画に毎月の勉強会を決め、行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を行っています。又、防災委員会を設け、年間の訓練を実施しています。	防火管理者を一名追加し、防災委員会を中心に二回の火災訓練と自然災害のマニュアルや、水・乾物等の緊急時備蓄が用意されている。又、先ずは日頃の安全管理が大切であることから、日々の安全チェックが遅出職員によって行われている。	地震や水害についてマニュアルの作成が行なわれており、今後は机上の勉強会や設置を予定している掲示板を活用し、近隣・地域に訓練の参加を呼び掛けるなど、協力体制に繋げていく事が必要と思われる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各スタッフはご利用様がお元気な頃の仕事やその時の地位、立場等を把握しており、その方にあった言葉かけを行う様に対応しています。	個々の人格を尊重したケアを「スマイルライフ」の理念に沿って実践に繋げ、接遇研修会の開催や、DVD視聴(自宅・勤務後)により共有が図られている。呼称は基本的に苗字にさん付けとしているが、希望や状況により下の名前でも対応している。重要書類は事務所内の鍵付きキャビネットにて保管し、守秘義務については入職時や会議の中で説明している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各スタッフはご利用者様に日々対応する中で、本人の意向を確認しながら対応する様心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課はありますが、その時の気分やペースを尊重しながら支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日一緒に着る服をコーディネートしています。又、外出の際の鏡台を出口付近に設置し活用して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛付等を手伝って頂いたり、片付けの時には食器の拭きとりを一緒にやっています。	献立は季節感に配慮し、メインの食材のみ業者からの納入としているが、ホームでも食材購入から調理を行ない、毎回汁物が付けられ、誕生会ではその方の好みのメニューを準備している。日々の調味料(味噌・醤油)は、県産の専門業者から届けられている。庭先で行なうバーベキュー会はボランティアも参加し楽しい時間を過ごされたようである。入居者が直接調理に関わる事は少なくなっているが、盛り付けなどできる事を支援し、職員も同じ食事を一緒に摂っている。	ボードに記される献立名で、果物名等もはっきり記入する事で、入居者の楽しみも広がると思われる。又、ホームの食への取り組みについても家族へ伝える事で安心や共有に繋がる事が期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を確認しており、飲み物に関しては、ご本人の飲みたい物を聞いて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、入れ歯の方は週2回ポリドントに浸ける様になっています。磨き残しがある場合は介助にて対応し口腔内洗浄用のブラシ使用し対応。又、異常時の早期発見に努めており、必要な際は協力歯科へ対応を依頼しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表を利用し、定時誘導やその時の状況に応じて誘導と付き添いを行っています。	自立の方の継続やチェック表を活用し、個々に応じ声かけ・誘導を行っている。日中は布下着に排泄用品を組み合わせる等、職員間で工夫や連携を行いながらトイレでの排泄に努めている。トイレ内は異臭もなく清潔に管理され、入居者が気持ち良く使用できるように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日本体操や運動を行う外、食物繊維の多い食品や、十分な水分摂取が取れる様に対応しています。又、家族と相談し、ヤクルト等の個人購入にて便秘予防に協力依頼しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中ではありますが、その都度ご利用者様の意向や状況をふまえ、入浴時間を柔軟に設定しています。又、季節行事の中で柚子湯や菖蒲湯も取り入れています。普段は入浴剤も使用しています。	午前・午後に入居者の体調や希望に配慮しながら最低週二回の入浴支援を実施している。拒否の方へは傾聴しながら無理のない声かけにより支援し、同性介助の希望へも対応している。ゆず湯の季節風呂支援では職員のアイディアにより、全員が楽しめるようゆず湯週間を設け実施された。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日のご利用者様の決定にて入眠を促したり、その日眠くない時は一緒に話しながらテレビを見たりし、落ち着かれるまで一緒に過ごしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに服薬リストを綴じており、薬の服薬目的や副作用について各スタッフが理解出来る様に工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器拭き等、ご利用者様自身での活動に対し対応しています。又、コミュニケーションの中から、ご利用者様の意向も取り入れながら、楽しみや気分転換の時間を設けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎の行事を取り入れる中で、施設外での企画も行い、その際に家族への参加も声かけを行っています。	近隣の散歩やベランダでの日光浴・お茶タイム等身近にできる事を実施しながら、花見や神社参拝等季節の外出を支援している。ドライブ外出では、入居者の体調に配慮しながら数回に分けて実施されている。又、家族と受診で外出した際食事を楽しまれたり、ホーム行事の外出に家族の参加も得られている。	今後も家族と一緒に参加協力できる外出の企画や声かけを行い、入居者の外出の機会が支援される事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭管理は困難な方ばかりなので、施設にて管理しており、園外行事等の際にご利用者の買いたい物を選んで頂き、スタッフが買い物の対応をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望により、家族に連絡出来る様、対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは天井が高いため圧迫感がなく、ベランダは南向きで開放感があります。近くには小学校もあり、元気な子ども達の声が聞こえる環境です。施設の畑もあり、畑作業が好きな方は水やりや草取り、収穫の作業をされています。	開放的なリビングには、観葉植物や職員が持ち寄った季節の花が飾られ、直近の外出支援や行事写真の掲示は入居者と共に来訪した家族の楽しみに繋がっている。又、畳敷きのコタツコーナーをはじめ、ソファの設置により寛げる空間が確保されている。遠く阿蘇の景色を眺めながら日光浴や歩行訓練・プランター栽培が出来る広いベランダには、職員手作りの懐かしい鳥かごが下げられ風情ある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に畳の場所やソファを設置しベランダにはベンチを置いて好きな場所が利用出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファ、ダンス、写真等自宅にあったなじみの物を自由に持ち込んで安心出来る環境の整備をして頂いている。	明るい居室の入り口には各担当者のアイデアにより手作りの表札や飾りが施され、それぞれの思いが伝わってくる。空気清浄機や家具・写真・使い慣れた小物等が家族の協力により持ち込まれ過ごし易いた部屋となっている。職員もベッドや家具の配置、紐をさげ照明を使い易くするなど一人ひとりの状況に応じた居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各トイレ、通路、浴室等に手すりを設置し、畳の場所以外はすべてバリアフリーになっています。		